

一般演題5 O5-4

突発性難聴に対する高気圧酸素治療 当院での治療実績

桐木園子^{1) 3)} 高木 元^{2) 3)} 宮本正章^{2) 3)}

- | | | |
|----|------------|----------|
| 1) | 日本医科大学付属病院 | 総合診療科 |
| 2) | 日本医科大学付属病院 | 循環器内科 |
| 3) | 日本医科大学付属病院 | 高気圧酸素治療室 |

【背景】

突発性難聴は原因不明の感音性難聴で、本邦の2001年の全国推定受療患者数は約35,000人とされている。治療法は副腎皮質ステロイド、血管拡張薬、代謝改善薬、ビタミン製剤と星状神経叢ブロック、高気圧酸素治療 (HBO) が知られており、またHBOの効果は蝸牛への酸素供給増加にあると言われているが治療のプロトコルは未だ確立されていない。HBOは2018年4月の保険点数改定以降、突発性難聴の治療法の一つとして治療に貢献している。当院でも患者数が大幅に増加している。その中で、発症後14日以降に治療を開始し有効性を認めた症例も経験した。今回、当院の患者数の推移、治療開始までの期間と治療効果の有無について集計したのでここで報告する。

【方法】

対象は当院または他院耳鼻咽喉科で突発性難聴と診断されHBOを開始した患者。期間は2015年4月1日から2018年12月31日まで。デザインは保険診療下の単施設コホート研究。治療は1回2.8ATAで1時間、エアブレイク5分、治療前後の聴力検査を比較し効果判定を行った。

【結果】

期間中突発性難聴患者の総数は35人、男性が18人 (51.4%)、平均年齢は50.77±13.45歳、発症からHBO開始までの日数は平均20.5日 (4日-63日)、HBO全体に占める突発性難聴の患者数の割合は、2015年4月-2016年3月 108人中5人 (4.6%)、2016年4月-2017年3月 97人中3人 (3.1%)、2017年4月-2018年3月 89人中7人 (7.9%)、2018年4月-2018年12月 80人中21人 (26.3%) だった。35人中有効性を示したのは19人

(54.3%) だった。

【考察】

2018年4月の保険点数改定以降患者数は急増しているが、実際にHBOを開始するのは発症2週間以降が多い印象である。ステロイド全身投与の効果が限定的だったのでHBOを試してみたい、という患者が多い印象である。耳鼻科医がHBOに積極的でない根拠となっているのが、HBOと鼓室内ステロイド注入の治療効果は変わらない、という論文である¹⁾。さらにHBOで滲出性中耳炎に罹患することもあり、それならHBOより鼓室内ステロイド注入のほうがアプローチしやすい、という現状である。しかしこの論文でもどの治療が効果が高い、または低い、というはっきりしたデータは示していない。

【結論】

保険点数改定後突発性難聴の治療法としてHBOの認知度向上と思われる症例数増加中である。早期加療が基本ではあるが、発症から一定期間経過していてもHBOを行う意義はあると考えられた。

参考文献

- 1) 突発性難聴における聴力改善経過と改善率に関する検討 *Audiology Japan* 59, 5865, 2016